

事業概要：コンパクトタウンの強化 創造空間 こうみ 多生～Make P Progress事業

継続

申請者	長野県小海町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R11年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,194,370千円 (151,712千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	小海町はJR小海駅を中心に拠点的機能が備わった「コンパクト・タウン」として形成されている。この都市構造を強みとして活用し、小海駅周辺に移住定住・小海町に留まりたい、交流や賑わいを生み出す魅力的な空間を創出することで外から人を呼び込み、また内から外への流出を防ぐ。交流人口の増加、移住定住、転出抑制等により人口を確保する。これにより地域内消費の拡大、経済波及効果拡大が図られ、将来においても地域を存続させ、活力あるまちづくりを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 都市機能が集積する小海駅周辺において、利便性の高い新たな居住エリアの整備と、町民の憩いの場となる公園整備を一体的に実施するものであり、既存の未利用地や低未利用地を再編し、「魅力ある多様な空間」を創出することで、若年層・子育て世帯などの流入・定着を図るとともに交流人口の増加を促進するものである。					コンパクトタウンの強化 創造空間 こうみ多生～Make Progress事業 長野県南佐久郡小海町 新たな住まいの場エリア 町独自の「居住空間」実現 多様な人々が主体的な存在として地域に溶け込み、共生するオープン型の拠点日本館CCRCを形成した小海駅C1M.C (Continuing Initiative Multi-generational Community) を展開 移住体験施設 (短期、中期、長期)、二地域居住施設、交流人口促進施設、コミュニティスペース、ショップなどを兼ね備えた本地域への新たな他地域・町民の交流、移住・定住の促進 移住体験施設 交流人口促進 周辺地域の人々も利用可能 二地域居住施設 ティススペース 経済循環創出 既存商店街の活性化 駅周辺での各事業進捗を踏まえ、地元商業とともに人を駅周辺に呼び込むしくみ、体制を構築、地域内需要のみならず、地域外需要への拡大。民間活力の活用 コワーキングスペース「エキマエ」 拠点整備を町有の若狭キラコンテツのつととし、町の隅には南佐久地域のグレートウェイとして、表連する小海駅周辺に新たな魅力を取り込み、新たな人の流れによる、小海駅周辺の活性化と失われた賑わいの創出を実現する。 ハブ拠点エリア 小海駅、土村公園周辺エリアの賑わいの再生 公園整備 新たな人の流れの遠流や交流の場として、地域社会におけるコミュニティ形成、生活の質の向上、魅力的な環境を創出することで多様な交流を促進 土村 (都市計画) 公園現況	
	【R8年度事業 経費内訳】 【ソフト事業】 ・新たな創造空間回遊のための戦略構築 (委託料) 7,700千円 ・新たな創造空間に人を呼び込む各種取組 (委託料) 1,100千円 ・ともに伴走する担い手確保の取組 (委託料) 1,100千円 【拠点整備事業】 ・新たな住まいの場拠点整備 56,100千円 ・人を呼び込む公園拠点整備33,000千円 【インフラ整備事業】 ・人を呼び込む公園整備1,012千円 ・新たな創造空間の価値を高める道路整備 51,700千円						
KPI	①人口数 (▲301人) ②交流人口数 (+10,958人) ③町民定住意向割合 (+12.4%) ④コミュニティスペース利用者数 (+3,800人) ⑤土村公園利用者数 (+3,300人)					URL	(交付金の具体的使途・実施体制) https://www.koumi-town.jp (効果検証) https://www.koumi-town.jp

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL